

森基金 研究成果報告書

研究課題名：「カフェはどのように地域コミュニティに影響を及ぼすか」

政策・メディア研究科1年 出山健人

私が計画していた今年度の研究プランとしては、まずフィールドワークに行くことだった。私が行おうとしている研究にはフィールドワークが必要不可欠だと考えているからだ。実際にカフェに足を運び、自分の研究に当てはまっている店を探したのち、店主や常連客にどのように常連客同士がつながっていくのかを解明する半構造化インタビューを行う予定だった。また木更津にあるカフェ「THE COFFEE Kisarazu」にも赴き、空間作りや人のつながりをつくる上で要素を調べ研究の参考にする予定だった。しかし新型コロナウイルス感染拡大の影響により、フィールドワークの実施を断念せざるを得ない状況になった。幸い自宅の近くにコミュニティカフェと呼ばれているカフェがあったため、感染予防対策を行った上で実際に足を運んだ。ここでは文献を読むだけでは感じることはできない「場の空気」を感じることができた。そのほかにもコロナ禍での現状やカフェに対する自分のイメージと現実の違いなど、研究を進める上で参考にできる知見を得ることができた。

今年度行うもう一つのプランとして文献調査を考えていた。コロナ禍でフィールドワークを行うことが難しかったため、今年度は文献調査がほとんどとなった。サードプレイス全体に注目したものやコミュニティカフェに焦点を絞ったもの、サードプレイスを活用した地域づくりに注目したもの、地域コミュニティの形成に注目したものなど、様々な視点の文献を読むことができた。その中で自分の研究におけるサードプレイスの定義の考察や、サードプレイスを研究する意義の再認識をした。

これらの活動によって自分の研究の方向性が少し変わった上で明確になった点がある。それは「なぜサードプレイスが必要なのか」というサードプレイスに対する視点だ。以前はカフェなどのサードプレイスが力を発揮することで人のつながりを生み出し地域コミュニティが作り出され、それが地域活性化につながるからだとしていた。しかし研究を進めていく上で地域コミュニティの形成だけではなく「孤独」をなくすことも可能になるのではないかと考えるようになった。孤独という問題そのものは根本から存在していたものの、当たり前前

提として深く考えることはなかった。コロナ禍によって人の交流が少なくなり孤独な人ができやすくなった点も絡め、今後は孤独にも焦点を当てて研究を行いたいと考えた。